

平成22年度帰国教員・帰国報告

川口市立木曾呂小学校 河野通昭
(平成19年度サンチャゴ日本人学校派遣)

1 遠くて近い国チリ共和国

<国土>

日本から見てちょうど地球の裏側にあたるチリ共和国。時差は13時間(夏時間では12時間)あり、南半球に位置することもあり、季節は真逆である。

日本のおよそ2倍ある国土は、太平洋とアンデス山脈に挟まれ、東西に約200km、南北に約4,300kmと南北に細長い国土である。北部には乾燥度世界一ともいわれるアタカマ砂漠、南部は湖沼と森林に覆われ氷河地形が残る風光明媚なパタゴニア、太平洋を遙か西に向かうと世界遺産にも登録されているポリネシア文化圏をルーツとするイースター島、そして南極にも領土を持つなど、非常に多様な自然・文化を擁している。

<気候>

サンチャゴ日本人学校のある首都サンティアゴは日本と同じように四季がある。南半球のため季節は逆だが、気候は温暖で冬に数日から数週間の雨季がある。チリ人は雨が降ると大喜びで、傘もささずに雨に濡れることを楽しむ人が多い。この時期、首都上空は風がほとんどなく四方を山に囲まれているためスモッグによる車の通行規制が行われている。9月半ばに短い春が訪れると、すぐに夏シーズンの到来である。10月半ばからはサマータイムも施行され、12月になると午前六時の夜明け、午後九時半の日没となる。例えば残業を終えて七時半に学校を出ても、標高800mということも手伝って太陽はまだ東京近郊という午後二時くらいの日差しなのである。また、一日の寒暖差も激しく、明け方は冬場で0℃前後、日中は日が出てさえいれば20℃を軽く超え、夏場には30℃を超える日がほとんどである。ただ、寒流の影響下にあり空気が乾燥しているため、どんなに激しく運動しても、日陰にさえ入れば汗はスーッとひいていき、過ごしやすい環境にあるといえる。

<人口>

人口はおおよそ1,600万人強。そのうち約1/3弱の人が首都サンティアゴに住んでいる。北部の砂漠地帯、南部の森林湖沼地帯で住めるような場所が限られていることや、産業・雇用の関係もあり、そのほとんどが首都や地方の中心都市に集中している。

<国民>

日本人から見ると非常に時間にルーズなところがあるが、陽気で明るく、親しみやすい性格の人が多く、子どもや老人などの弱者に対して、とても優しい。

<言語>

公用語はスペイン語である。英語が話せるチリ人は少なく、市内でも英語はまず通じないと思った方がよい。チリ人の話すスペイン語はとても速く、スペイン語のネイティブスピーカーでもチリ以外の国の人は聞き取りにくいそうだ。

<日本人>

在留邦人は、企業の駐在員とその家族合わせて約1,000人、日系人が約2,000人といわれている。日本人会の組織も確立されており、50年以上の歴史を誇る。

<教育制度>

初等教育が8年間で義務教育となっており、その上に中等教育が4年ある。高等教育(大学・専門学校)では、日本のセンター試験のような統一試験を受け、その得点に応じて就学先が決まることとなっている。

<産業>

日本と関わりの深いチリの特産品といえば銅、ワイン、サーモンなどが挙げられる。銅は世界一の産出量を誇り、チリ経済を支える基盤ともなっている。先日のチリ地震後には銅の国際価格が一気に引き上がったとされており、世界経済に与える影響も大きい。サーモンは、海で養殖されたものが日本に輸出され、刺身や塩干加工品としてスーパーなどでもお馴染みである。それ以外にも回転寿司などで供されるウニはチリ産のものが多い。また、最近では日本との季節の違いからブドウなどの果物も端境期を埋めるものとして、多く輸出されるようになっている。

<生活>

平均的なチリ人の給料は一ヶ月20~25万ペソ(日本円で5万円弱)であり、共働き世帯が多い。物価は、決して安くはなく、工業製品のほとんどは輸入に頼っていることもあり、日本と比しても高い。逆に野菜や果物、肉などの生鮮食料品はとても安く、とくに果物は種類も豊富でとてもおいしい。食事は味付けが質素で、塩・砂糖・胡椒などのわずかな調味料だけで、だしやうま味などに慣れた日本人には厳しい。首都サンティアゴ市内では、中国や韓国食材を扱うところがあり、割高ではあるが在留邦人の多くはここで足りないものを購入している。衣類・生活雑貨・電化製品・贅沢品(ブランド物など)などの品揃えも豊富であり、日本国内と変わらない。

<治安>

南米の優等生と言われるだけあって、銃犯罪も少なく他の南米諸国に比べ、治安はよいが、ひったくりや窃盗などは日常に起こるため、滞在中は注意を怠ることはなかった。

2 サンチャゴ日本人学校の概要

<サンチャゴ日本人学校の現況>

サンチャゴ日本人学校は、企業出資による日本文化教育財団を運営母体として設立され、今年で創立29周年を迎える。

現在では全校児童生徒合わせて37名ほどの学校である。そのため、学年間の壁や隔たりもなく、小学部1年生から中学部3年生までが兄弟のように和気藪々と生活し、いつも笑い声が学校中に響くアットホームな雰囲気の中で様々な活動に取り組んでいる。

チリ国内における日本の教育機関はサンチャ

